

日常生活に潜む危険の視覚化

氏名：石川美希
指導教員：小出昌二
拓殖大学工学部デザイン学科視覚デザイン研究室

キーワード：ピクトグラム・イラスト・警告表示

1、研究の背景と目的

日常生活の中で、普段からの行動や使っている物には、危険なことがある。危険なこと・ものでも慣れてしまい、注意が疎かになっていることがある。話題となってから、危険なこと・ものだと、多くの人々が、認識し始めるのだ。
そこで、危ないこと・ものを視覚化することで、身の回りの危険について、人々に改めて気づいてもらうことを目的にする。

2、研究方法

日常生活の中での危険について、シンボル化を行う。シンボル化することで、文字の情報よりも人々が注目しやすくなる。記号や表象で伝えることで、印象が高まるからだ。

シンボル化するときは、オリジナルピクトグラムを使用して行う。ピクトグラムは、言語に捕らわれず、誰でもわかりやすく理解することができる。
ピクトグラムの制作にあたって、人によって見方が変わっていくこともある。そこで、第三者に検証を行ってもらう。

どのような危険があるか客観的に調べるために、事故数や事件数を調べていく。一つの立場の考えだけではなく、他の立場からの考えも、捉えていく。

また、まとめたものを、本にする。まずは、日常生活に潜む危険について関心がある人をターゲットとする。本にすることで、多角的な視線を、伝えることができ、伝えたい情報を省くことなく本に乗せることができるからだ。

次に、ポスターを制作していく。関心がない人にも、危険について注目してもらいたいからだ。ポスターのメリットは、不特定多数の人に見てもらうことができるからだ。

3、これまでの成果

デザインを学ぶ 21 歳～ 22 歳の学生 7 人に協力してもらい、ブレーンストーミングを行った。ブレーンストーミングの結果から、人による危険な「行動」について多く上がった（右図 1）。

ブレーンストーミングの結果から、人による危険な「行動」について多く上がった。このとき、今回の研究にあたって、地震、津波などの天災はシンボル化しないことにした。天災は、自然界の災害であり、本研究は人為的なものを対象とした。

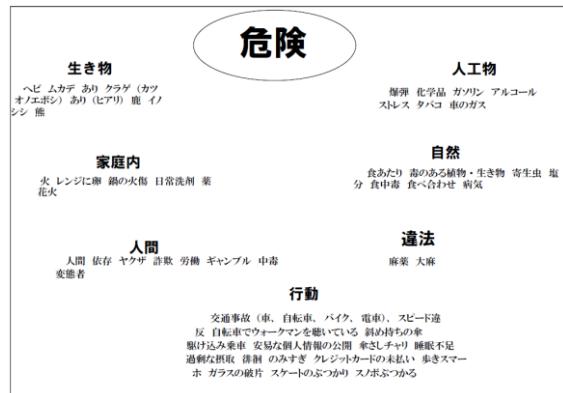


図 1、ブレーンストーミング

4、制作案

まずは、本についてだ。本の制作にあたって、本の大きさを、幅 145×高さ 170 (mm) にし、枠の大きさを、幅 125×高さ 150 (mm) にした。

図 2 の枠内に、日常生活に潜む危険の視覚化を行うため、イラストや説明が見やすい大きさで、持ち運びしやすい本を製作することを考えている。持ち運びがしやすい本だと、好きなときに読むことができるからだ。

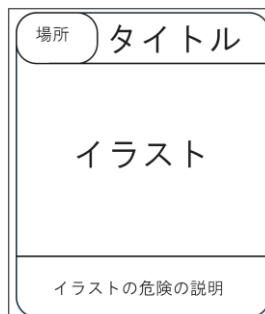


図 2、本の掲載する際の枠案

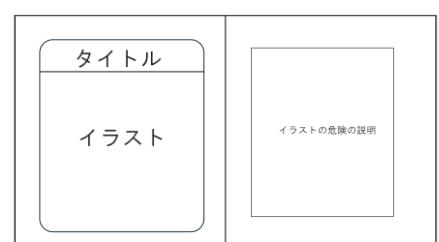


図 3、本の構造

次に、本に掲載する際に使用するピクトグラムの試作一部である。（図 4）

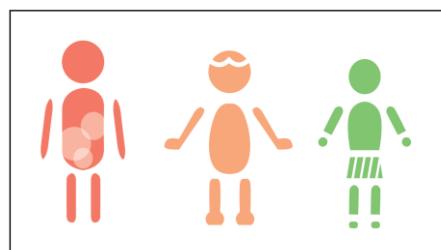


図 4、試作案のピクトグラム

図3のピクトグラムから、よりオリジナル性があるものを制作することを考えた。本研究では、身の回りの危険について、人々に改めて気づいてもらうことを目的にしている。そのため、試作案のピクトグラムでは、従来のピクトグラムと変化がないため、注目してもらうことが難しい、と思ったからだ。

最終的には、図5のような形のシリーズの制作を11種類行った。色の使用を、白と2種類の3種類で表現した。

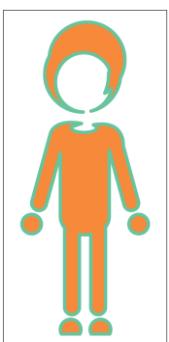


図5、シリーズ化の原案

本に載せる一覧が、図6である。図6では、イヤホンで音楽を聴きながら、自転車運転中のシーンである。外の音が聞こえないため、周りへの注意が疎かになるからだ。

また、都道府県によって異なるが2015年6月1日から自転車の危険運転の対策が強化され、自転車運転中のイヤホン使用も入っている。そのため、普段から自転車を使用している人は慎重に運転していく必要がある。



図6、自転車運転中のイヤホン使用の図

本の構造は図3のように、右側には図6のイラストを載せ、左側には説明の図7を載せた。こうすることで、見やすくなる、と考えたからだ。

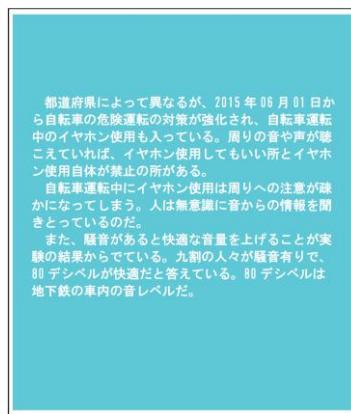


図7、自転車運転中のイヤホン使用の説明

最後に、ポスターについてだ。ポスターは、本で掲載した11種類の中から4種類選びポスター制作を行う。このとき、イラストは本に掲載したものと同じイラストを使用する。

ポスターの大きさとして、B1サイズの幅728×高さ1030（mm）として考えている。

5、今後について

ポスターは、警告表示ではなく、興味を持ってもらうような文にする。ポスターに興味を持ってもらい、最終的には本を読んでもらうことを目的にしているからだ。

また、ポスターでは本に掲載してある同様のイラストと、背景となるものも制作することを考えている。

6、参考文献

本

- 「ピクトグラフィハンドブック」ルドルフ・モドレイ
- 「おもしろピクト作り方」カイガン
- 「ピクトグラム&アイコングラフィック2」前田豊
- 「図で伝えるデザイン」松村大輔

Wed

イヤホンの使用が聴覚に及ぼす影響についての調査結果（1021）

<http://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/anzen/test/documents/earphone.pdf>

警視庁・自転車の正しい乗り方（1021）

<http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/bicyclette/jmp/bicyclette.pdf>

電車の迷惑行為ランキング（0918）

<http://www.mintetsu.or.jp/association/news/news28-13web.pdf>

傘の事故（0915）

http://www.kokusen.go.jp/kiken/pdf/290dl_kiken.pdf